３６００７　真駒内中学校

（様式２）

令和６年度　自己評価書及び学校関係者評価書

令和７年（2025年）２月２７日
札幌市立真駒内中学校

１　本年度の重点目標

１．「課題探究的な学習」と「個別最適な学びと協働的な学び」の充実に向けて
（１）生徒の主体性を育む授業づくり～「課題探究的な学習」充実と評価観の共有
（２）ＩＣＴ機器の有効活用～１人１台端末の活用の充実とＩＣＴ有効活用
２．多様性を認め生徒個々の相互承認の感度を高める
（１）教育相談活動の充実～子ども理解と情報の共有・いじめ防止・組織的対応
（２）相手意識に基づく生徒指導・傾聴～「困り感の共有」と「寄り添いと併走」
３．健やかな体の育みに向けて
（１）生徒自身が心身共に健康で安全な生活を生涯にわたり実践できる教育の充実
（２）体育に関する指導の充実と日常における体力向上～運動機会の提供と充実
４．信頼される学校づくりに向けて
（１）家庭、地域との連携と協働～それぞれの思いに寄り添った共につくる学校
（２）服務規律の遵守～信頼される教職員へ
５．研修の充実と小中一貫した教育（義務教育学校開校）に向けて
（１）パートナー校（桜山小・駒岡小）との連携強化・研修機会の充実
（２）児童・生徒を主体とした活動、及び教職員間の協働と交流機会の充実
（３）令和９年度の義務教育学校開校に向けた基盤づくりと業務の改善・整理
６．危機管理意識の向上
（１）アンテナを高くして情報の共有、連携による迅速かつ適切な組織対応の徹底
（２）防災・防犯意識、危機管理意識の向上と研修の充実
（３）適切な備品管理・会計業務の推進

２　本年度の経営方針

(1) 人間尊重の教育を推進し、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを推進する。

(2) 調和のとれた教育課程を編成し、全教職員の相互理解と協働によって推進する。

(3) 生徒の多様性を大切にしながら、人間性や社会性を育む指導の充実を図る。

(4) 学級を基盤として、学年や生徒会の諸活動を「生徒を主体とした活動」として再構築し、協働的な活動を行うことで自己有用感や所属意識を高める。

(5) 小中一貫した教育を推進するとともに教職員の共通理解に立った協働体制を確立し、創意工夫あふれる小中で連携した教育活動を実践する。

(6) 保護者や地域社会との連携を図り、信頼に応える開かれた学校づくりに努める。

3　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
重点目標	②	学校は「学校ホームページ」や「保護者メール」、「学校だより」、連絡文書等を通じて学校の情報を発信し、学校の様子を子どもたちや保護者、地域に伝えようと努めている。	A	本年度同様に行事や日常の生徒の様子を「学校ホームページ」のニュース等を活用し随時発信する。 「すぐーる」を通じた速やかな情報発信に、引き続き取り組む。	A	A
	③	学校は校区内の小学校との連携・交流や研修の機会を多くする等、地域に開かれた学校づくりに努めている。	A	義務教育学校に向けて、児童・生徒の交流機会、教職員の情報交流・研修会等の機会を定期的に設定する。また、ＣＳに向けて地域との連携も計画的に進めていく。	A	A
	④	学校は「学年ＰＴＡ」「学校公開日」や「学校祭」「まこりんピック」「合唱発表会」等の行事を通して、教育活動の発信や交流に取り組んでいる。	A	各行事や授業公開だけではなく、内容によっては生徒対象の講演会等にも保護者に参加していただき、年間の教育課程を整理しながら随時保護者や地域との交流機会を設定していく。	A	A
	⑥	学校は授業中、課題(問題)に対して、ノートやワークシートに自分の意見やまとめを書いたり(体育科は『自己評価カード』)、ペアやグループで活動を行うなど、生徒の学力向上に向けた取組をしている。	A	課題探究的な学習を中心に、どの教科においても「見通す」→「行動する」→「振り返る」学習活動の充実を図り、生徒の主体性を育む教育活動の一層の充実に努める。 生徒の学力向上につながるＩＣＴの有効活用のための教職員の研修を充実させていく。	A	A
	⑩	学校は子どもたちや保護者と向き合い、教育相談や期末懇談、家庭への電話連絡を行う等、生徒の理解に努め、指導を行っている。	A	「シャボテン(心の健康観察アプリ)」等の有効活用や定期的な教育相談、日常的な生徒との交流を通して、一人一人の子どもに寄り添った生徒理解を心がけ、信頼関係の構築に努める。また、保護者と連携した取組を進める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		児童・生徒の交流機会を設定する等、生徒の主体性を育む教育活動が実践されている。 情報発信に努めており、義務教育学校の開校に向けて前向きな取組ができていると考える。 学校教育活動で最も重要な教師と生徒、保護者との信頼関係の構築に努めている所が評価できる。				

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
学習指導・確かな学力	⑤	学校は「日々の授業」や「長期休校中の学習課題の支援」「放課後学習サポート」など、生徒一人一人に対応した学習指導をしている。（複数の教員による教科指導やＡＬＴ[外国語指導助手]、補充的なプリント配布など）	A	複数の教員による個別最適な学びと協働的な学びの実践に努める。 定期的に放課後及び長期休業を活用し、学習サポートの時間を設定するなど、一人一人の学びの充実に向けた取組を進める。空きスペースを利用した補充プリント配付等にも引き続き取り組んでいく。	A	A
	⑦	学校は「Chromebook」や教材(資料集)・教具等を活用する等、分かりやすい授業をしている。	B	ICT機器の効果的な活用方法や実践例を、研修会等を通して交流し、教員の日常的活用とスキルアップに努め、学校全体でより効果的な活用を目指す。	A	A
	⑧	学校は、職業調べ、職場体験など「総合的な学習の時間」の時間のなかで、一人一人の適性や将来を考える機会を設けている。	A	３年間を見通した計画的なキャリア教育の充実や、講演会や職場体験等、外部の教育力を活用することを通し、子どもたちが進路や社会との関わり、生き方をみつめる機会を設定する。	A	A
	⑨	学校は、計画的な評価計画や、適切な評価資料の提示に努め、授業や課題等の評価を通して、生徒の主体性を育む授業や評価を行っている。	B	全教科前後期制に向けて、年間評価計画作成や適切な評価資料・方法についての研修を更に深め、「学習の到達状況が見える評価の明確化」、「授業と評価の一体化」に努める。	A	B
	⑰	あなたは、1日平均どのくらい家庭学習を行っていますか。 １．２時間以上　　２．１時間程度 ３．30分程度　　４．ほとんどしない	B	昨年度より、家庭学習時間が0～30分程度の生徒が増加している。学校での学びが家庭での学びにつながるよう、自ら必要な学びについて、考え、取り組む力を育むとともに、クロムブックの有効活用や家庭との連携に努める。	A	B
学校関係者評価委員による意見		一人一人の学びの充実に向けた学習指導や、キャリア教育の充実を図り、適性や将来を考えたり、生き方を見つめたりする機会をきちんと設けている。 アンケート結果を見ると、学力への関心も高く、⑨⑰の達成状況の評価はAでも良いと考える。				

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
生徒指導・豊かな心	⑪	学校は体罰やいじめがなく、一人一人が尊重される学校生活が送れるよう努めている。	A	年間計画の中に、アンケートや相談活動期間を適宜設定し、未然防止・早期発見・早期解決につながる情報収集を行う。 全教職員で協働し、学校の活動全体を通して、子ども一人一人が自分が大切にされていると実感できるよう努める。	A	A
	⑫	学校は「道徳の時間」のなかで、これまでの自分の経験やそのときの気持ちや考え方を交流したり振り返ったりする活動を設けるなど、生徒の心の育成に努めている。	A	各種講演会や外部講師等を有効活用し、多様な価値観や考えに触れる機会を充実させる。 道徳の授業を通じ、さまざまな想いや考えを交流しながら心の育成に努める。	A	A
	⑭	学校は、「アンケート調査」や「定期的な面談(生徒・保護者・スクールカウンセラーなど)」「保健室・学習相談室(学びのサポーター)の活用」など、生徒の「心身の健康」の維持に努めている。	A	定期的に生徒の情報を交流する場面を設定し、教育相談日やいじめアンケート等の有効活用や、ＳＣとの連携を図りながら、生徒の状況について共通理解を図る。また、教師と生徒がコミュニケーションをとる機会を工夫し、より良い信頼関係が築けるように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		事故の未然防止・早期解決につながる情報収集や、生徒が尊重される学校生活を送れる環境づくりに努めていると考える。 「全教職員の協働」で生徒を育てようとしていることが窺える。この取組がＰＴＡ活動等にもつながることを期待している。				

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
その他／信頼される学校・健やかな体	①	学校は儀式的行事(入学式や終業式等)の簡素化をはじめ「学校行事の見直しと実施の工夫」を行う等、生徒や保護者の理解を図りながら、教育活動を進めている。	A	義務教育学校開校を見据えつつも、真駒内中学校として、生徒にとってより良い教育課程になるように、学校評価アンケートや年度末反省の内容を反映させながら計画していく。	A	A
	⑬	学校は日常の生徒との相談活動や保護者との懇談、長期休みの生活記録の確認等を通して、生徒の「日々の健康管理」の確認に努めている。	A	「シャボテン（心の健康観察アプリ）」等を有効活用し、担任だけではなく、全教職員で、生徒一人一人の心と体の健康状態の把握に努めるとともに、日々の健康管理について保護者と連携し、引き続き適切な指導に努める。	A	A
	⑮	学校は教科や新体力テスト、生活リズムチェックシートなどを通じ、生徒の体力を把握し、健康な体づくりを目指した教育活動に努めている。	A	体育科の授業に加え、保体委員会による昼休みの運動機会の充実、保健の授業や養護教諭による生徒の実態に応じた効果的な保健指導等、「健やかな体」育成プログラムの取組の充実に努める。	A	A
	⑯	学校は、部活動や運動に親しむ機会を設け、健やかな体づくりに向けて適切な指導に努めている。	A	生徒の心身の成長と体力の向上につながるような、効果的で充実した活動に努め、部活動活動方針を遵守し、適切なコミュニケーションを図って活動していく。	A	A
	⑱	あなたは、1日平均どのくらいテレビをみたり、インターネットやテレビゲーム、携帯電話やスマートフォンをしたりしていますか。 １．２時間以上　　２．１時間程度 ３．30分程度　４．ほとんどみたり、したりしない	B	２時間以上と回答した生徒が約５割となっている。ＩＣＴ機器の活用方法や注意点、向き合い方等について適宜学び考える機会を設定するとともに、家庭との連携も深めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		義務教育学校開校を見据えた教育課程が計画されている。 部活動や運動に親しむ機会を設け、心身の健康管理や体力づくりにつながる教育活動が行われている。 すべての自己評価、改善策ともに適切。先生方の心身の健康が安定した教育活動につながると考える。				